

コンビニエンス
ストアの

省エネルギー対策

コンビニ店長のための

節電ガイド



コスト削減

CO₂削減

東京都環境局
東京都地球温暖化防止活動推進センター
(クール・ネット東京)



はじめに ～コンビニで節電をする理由～ 3

Step 1 現状の把握 ～電気の使用状況を把握しよう～ 5

Step 2 目標の設定 ～電気使用量・電気料金の目標を決めよう～ 11

Step 3 節電対策の実施 ～取り組み内容を決めて、実行しよう～ 12

- ①冷蔵冷凍設備 の節電対策 15
- ②空調設備 の節電対策 17
- ③冷蔵冷凍設備・空調設備共通 の節電対策 19
- ④照明設備 の節電対策 21
- ⑤加熱保温設備 の節電対策 23

Step 4 結果の振り返り ～取り組みを振り返って、次に活かそう～ 24

節電チェックシート 裏表紙

店

年

Step 1
現状の把握

Step 2
目標の設定

Step 3
節電対策の実施

Step 4
結果の振り返り

節電チェックシート

月	前年		目標		節電対策	今年		「前年～今年」 (削減量と削減額)	目標の達成 ○、△、×	今後に向けて (振り返りメモ)
	電気使用量	電気料金	電気使用量	電気料金	(特に力を入れて取り組むもの)	電気使用量	電気料金	電気使用量	電気料金	
1月	kWh	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円	
2月	kWh	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円	
3月	kWh	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円	
4月	kWh	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円	
5月	kWh	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円	
6月	kWh	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円	
7月	kWh	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円	
8月	kWh	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円	
9月	kWh	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円	
10月	kWh	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円	
11月	kWh	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円	
12月	kWh	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円	

はじめに ～コンビニで節電をする理由～

本書は、コンビニ店長さん・オーナーさん向けに、節電に取り組む方法を、Step1～Step4の各ステップに分けて、わかりやすく解説した『節電ガイド』です。

しかし、本書を手にとった方の中には、「節電なんて何か面倒だな」「自分の店舗だけ頑張ったところで、意味が無いのではないか」と思う方もいらっしゃると思います。

ここでは、なぜコンビニ店舗で節電をするのか、その3つの目的を一緒に確認しましょう。

【目的1 コストの削減】

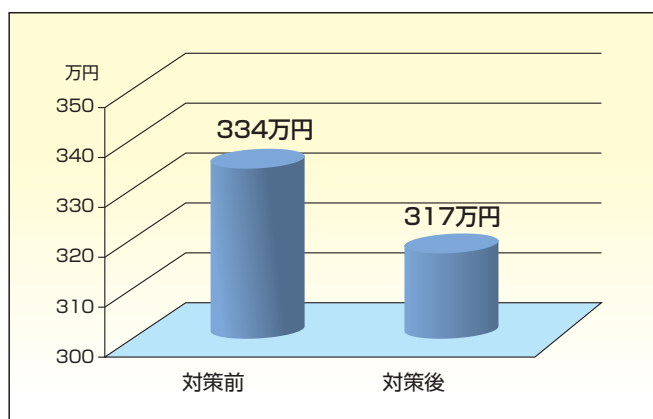
皆さんは、自分の店舗が年間でどれだけ電気料金を支払っているか、把握していますか？

都内の平均的な1店舗の年間電気料金を試算すると、約334万円※となります。5%でもこれを削減できれば、単純計算で、約17万円ものコストカットとなります。

節電対策には、新しい設備の導入など、お金のかかる対策もありますが、不要箇所の消灯やエアコンの設定温度変更など、お金をかけずに出来る対策も沢山あります。

本書を参考に、節電対策を実施して、お店の利益を増やしましょう。

※ 低圧電力契約、年間電気使用量164,000kwh、契約電力30kW、基本料金32,130円/月、従量料金単価18円を仮定して試算



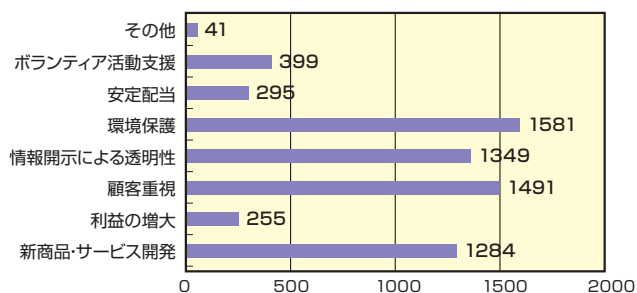
【目的2 お客様からの評価】

消費者の環境意識は年々高まっています。

これからの時代は、環境対策に熱心な企業・お店が評価される時代です。

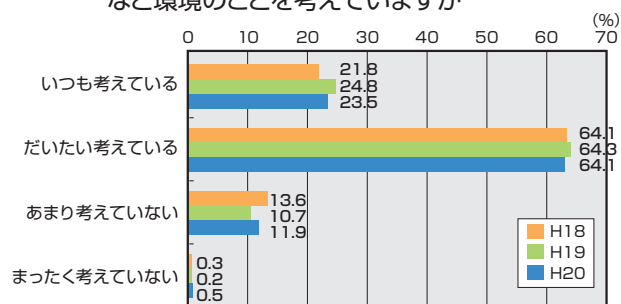
節電に積極的に取り組んで、エコの面からも、お客様から支持されるお店を目指すことをお勧めします。

問：今後企業が社会的信用を得るために、さらに力を入れるべきもの



(資料)内閣府『国民生活モニター調査』2001年(有効回答者数2242名)

問：あなたは、日常の買い物の際、ごみ・資源・エネルギーなど環境のことを考えていますか



(資料)内閣府『国民生活モニター調査』2008年(有効回答者数1810名)

【目的3 地球温暖化の防止・停電の防止】

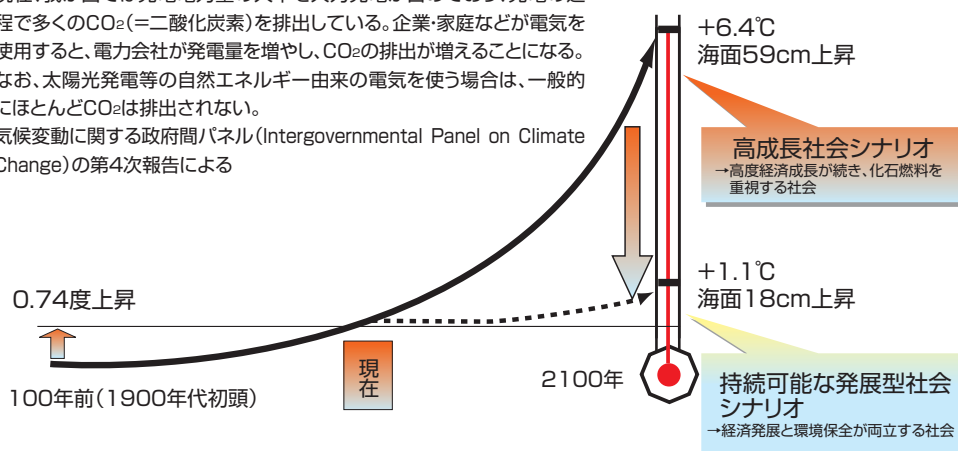
コンビニが消費しているエネルギーのほとんどが電気です。電気を使うと、間接的に発電にともなうCO₂を排出することになります。^{※1}

この100年間で、地球の平均気温が約0.74℃上昇してきており、その主な原因と考えられているのが、我々人類が排出しているCO₂です。2100年には、現在よりもさらに最大で気温が6.4度上昇することが予測されており^{※2}、深刻な悪影響が懸念されています。

節電対策を実施すれば、皆さんの店舗からのCO₂排出量を減らし、地球温暖化の防止に貢献することができます。それは同時に、事業者の皆さんの社会的責務です。

※1 現在、我が国では発電電力量の大半を火力発電が占めており、発電の過程で多くのCO₂(=二酸化炭素)を排出している。企業・家庭などが電気を使用すると、電力会社が発電量を増やし、CO₂の排出が増えることになる。なお、太陽光発電等の自然エネルギー由来の電気を使う場合は、一般的にほとんどCO₂は排出されない。

※2 気候変動に関する政府間パネル(Intergovernmental Panel on Climate Change)の第4次報告による



地球温暖化の影響

◆気温上昇

→動植物の絶滅、農産物の不作
→マラリヤ等、伝染病の拡大

◆海面上昇

→島国・沿岸部の水没

◆気象変動

→洪水・台風等の異常気象増加

2011年3月11日に発生した東日本大震災に起因する電力の供給不足は、現在も続いています。今後も社会全体として節電に取り組む必要があります。

<2012年夏の需給見直し(追加供給対策後)>

	(万kW)	北海道	東北	東京	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	東3社	中西6社	9電力
8月	供給－需要 (予備率)	▲33 (▲6.6%)	▲28 (▲1.9%)	▲294 (▲4.9%)	7 (0.3%)	▲785 (▲25.0%)	12 (2.0%)	73 (6.1%)	▲49 (▲8.2%)	▲162 (▲9.3%)	▲356 (▲4.4%)	▲905 (▲9.1%)	▲1,261 (▲7.0%)
	最大電力 需要	506	1,490	6,000	2,709	3,138	573	1,201	597	1,750	7,996	9,968	17,964
	供給力	473	1,462	5,706	2,716	2,353	585	1,274	547	1,588	7,640	9,063	16,703

※1 最大電力需要については昨年並の猛暑を想定。ただし、東北管内においては震災からの復興需要を考慮。

※2 これらの供給力強化以外に、緊急設置電源の新設等、更なる増強の可能性あり(+13万kW)。

注1) 夜間融通等の受電不足に伴う揚水汲み上げ電力不足により、東京▲100万kW、関西▲78万kWの可能性あり。

注2) 燃料調達に係る輸送力等の制約による石油火力及び揚水供給力減(九州▲337万kW)のおそれあり。

注3) 長期停止火力の復帰の遅れの可能性あり(関西▲45万kW)

(資料)国家戦略室2011年11月1日
エネルギー・環境会議資料

では、どうやって節電に取り組んでいけば良いのでしょうか。ここからは、Step1～Step4の4つの段階に分けて、その方法をわかりやすく解説していきます。

Step1で、現状を把握し、Step2で目標を設定、Step3で実際に節電対策を実施して、最後にStep4で振り返りを行います。

では、早速Step1に進みましょう。

Step.1 では、皆さんの店舗の電気使用の実態を他店舗の比較などから見つめ直し、現状を把握していきます。

■前年の電気使用量と電気料金の把握

まずは、前年の電気使用の実績を振り返ってみましょう。前年の電力会社の各月の「電気料金等請求書」(右図)から、「節電チェックシート」(裏表紙)に電気使用量と電気料金を転記しましょう。

Step.1 現状把握

月	昨年の 電気使用量	昨年の 電気料金
6 月	15,354 kWh	353,002 円
年間 合計	164,000 kWh	3,337,560 円

電気料金等請求書
(Electric bill)

毎度ご利用いただきありがとうございます。平成20年 6月分の電気料金等を下記のとおりご請求させていただきます。

ご請求金額 353,002 円
うち消費税等相当額 16,802 円

ご使用場所 [] 様
地区番号 [] お支払期限 []

月間電気使用量 (15,354kWh)
月間電気料金 (353,002円)

〇ご契約内容 契約種別 業務用電力 契約電力 主契約 119kW 契約電圧 主契約 6kV 〇ご使用実績 使用電力量 合計 15,354kWh 最大需要電力 64kW

〇過去1年間の最大需要電力 (kW)
平成20年 5月 59kW 平成20年 4月 76kW 平成20年 3月 76kW 平成20年 2月 91kW
平成20年 1月 86kW 平成19年12月 73kW 平成19年11月 55kW 平成19年10月 107kW
平成19年 9月 116kW 平成19年 8月 119kW 平成19年 7月 101kW
契約電力は、当月を含む過去12ヶ月における各月の最大需要電力のうち最も大きい値となります。

此送金相当額 102,832 円 左記は、お振込前納金の総額請求書にサービス料に基づき算出した参考額です。
ご請求金額には、法律で定められた使用消費料内税等消費税等相当額 (0.16円/kWh) を含んでおります。

電気料金等内訳書
当月のお支払の電気料金は記載のとおりです。内容を正確に確認の上、ご不明な点がございましたらお早めにご連絡ください。
なお、記載されていない事項につきましては、当社の電気料金計算およびご契約中の契約内容に照らして判断いたします。

料 金 内 訳	単 価	単 位	金 額 (円)	備 考	
基本料金	1,638.00	kWh	119	165,683.70	力率 100% 31日間
電力料	10.90	kWh	15,354	167,358.60	
その他	+1.30	kWh	15,354	19,960.20	

「節電チェックシート」の記入例

「電気料金等請求書」の例(一ヶ月分)

■都内コンビニの平均値との比較

次に、皆さんの店舗の電気使用量等を、都内の平均的な店舗と比べてみましょう。

左側の空欄に、皆さんの店舗情報を記入して、右側の平均値と比較します。

【 () 年 店 】	
◇延床面積	_____ m ²
◇年間CO ₂ 排出量	_____ t
◇年間電気使用量	_____ kWh
◇年間電気料金	_____ 万円

【都内全体】

◇店舗数 都内:6,236 店
(2011年8月末現在 日本フランチャイズチェーン協会調べ)

【都内1店舗当たり平均】

◇延床面積 都内平均:約140m²
(2011年度地球温暖化対策報告書のデータによる)

◇年間CO₂排出量 都内平均:約 62 t
(2011年度地球温暖化対策報告書のデータによる)

◇年間電気使用量 都内平均:約164,000kWh
(2011年度地球温暖化対策報告書のデータによる)

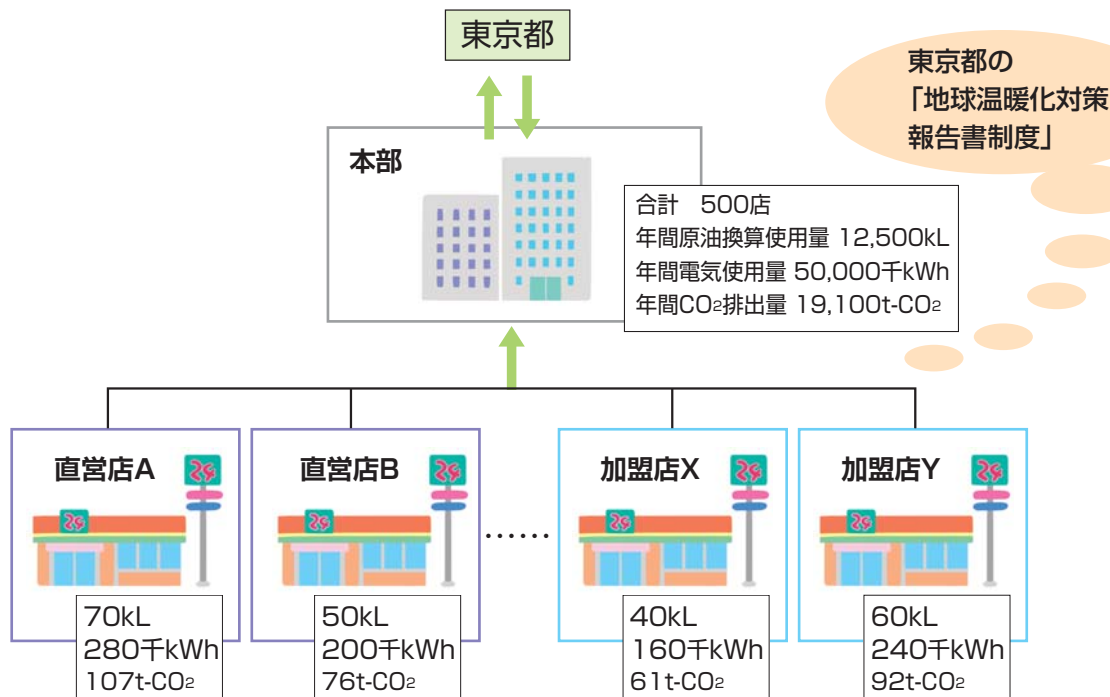
◇年間電気料金 都内平均試算: 約334万円
(低圧電力契約、年間電気使用量164,000kwh、契約電力30kW
基本料金32,130円/月、従量料金単価18円を仮定して試算)

※2011年度地球温暖化対策報告書のデータは、2010年4月～2011年3 月の実績です。

平均と比べて、皆さんの店舗のデータはどうでしたか。

なお、皆さんの店舗の延床面積と年間CO₂排出量は、東京都環境局の「地球温暖化対策報告書」の公表ページでも確認することができます。(http://www8.kankyo.metro.tokyo.jp/ondanka/ad135gcce/index.php)

これは、都内の中小規模事業所から提出されている「地球温暖化対策報告書」を東京都が集約し、東京都環境確保条例に基づき、温暖化対策の実施状況等を公表しているものです。



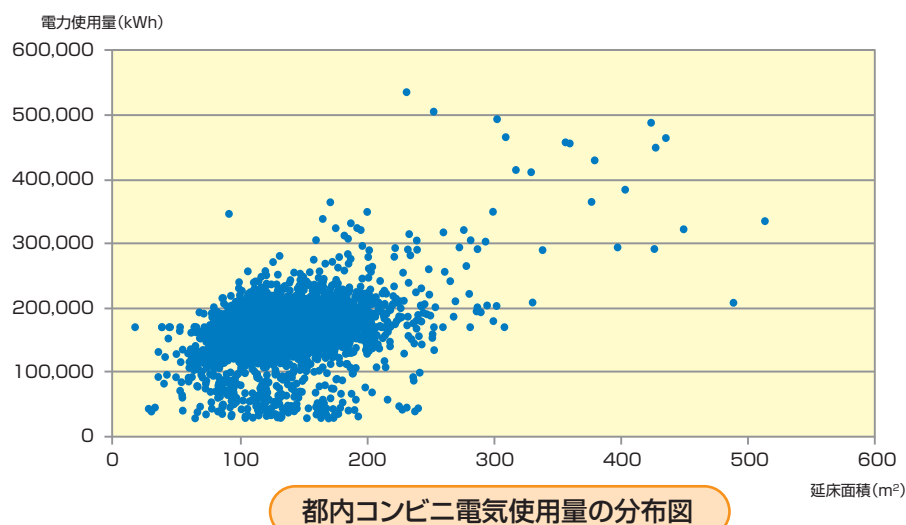
■都内コンビニの分布図との比較

もう一步踏み込んで、今度は、分布図との比較をしてみましょう。下図は、平成23年度の「地球温暖化対策報告書」の全ての都内のコンビニをプロットしたものです(各点が各都内の1店舗)。

一般的に、延床面積が大きいほど、電気使用量は大きくなります。注目すべきは、同じ延床面積であっても、店によって電気使用量に大きな差があることです。

設備構成や立地による影響が大きい場合もありますので、単純には比較はできませんが、「加盟店の中には、自ら積極的に節電に取り組んでいる店舗もある」(コンビニ各社からのヒアリング)ことがこの差の一つの要因だと考えられます。

皆さんの店舗についても、延床面積を横軸の数値に、年間の電気使用量を縦軸の数値にして、分布図のどの位置になるかを確認してみてください。



※コンビニでのCO₂排出のほとんどが電気の使用によるものですので、上のグラフの縦軸を「CO₂排出量」としても、同様の分布になります。

※延床面積600m²超、電気使用量600千kWh超または電気使用量28.74千kWh以下の店舗(年度途中に開閉店があった場合など)は、本分布図から除外しています。

■コンビニの電気使用量の設備別シェア

ひとくちに「電気使用量」といっても、その用途は様々です。

電気使用の用途

1 冷蔵冷凍設備

- ・バックヤードの保管用冷蔵庫・冷凍庫
- ・冷蔵食品用のショーケース
- ・冷凍食品用のショーケース
- ・コールドドリンクのショーケース



2 空調設備

- ・夏季の冷房(売り場・バックヤード)
- ・冬季の暖房(売り場・バックヤード)



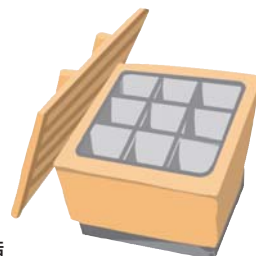
3 照明設備

- ・天井照明(売り場・バックヤード・トイレ)
- ・ショーケースの照明



4 加熱保温設備

- ・ホットドリンクのショーケース
- ・フライヤー、電子レンジ
- ・おでんウォーマー
- ・中華まん・唐揚げ等のショーケース
- ・唐揚げ等ホットスナックのショーケース



5 その他設備

- ・コピー機
- ・ATM
- ・トイレの暖房便座、ハンドドライヤー
- ・事務所のストアコンピュータ、パソコン等



右ページの円グラフは、実際の都内の各店舗の電気使用量のシェアを、現場調査を行って算出したものです。

●A店 ビルインタイプ

(通常、ビルの1階に位置し、道路側に入口がある店舗)

●B店 単独タイプ

(通常、大きめの道路沿いに立地し、駐車場が併設されている)

●C店 夜間閉店タイプ

(入口がビル内部にあり、ビルが閉まるのに合わせて閉店する。)

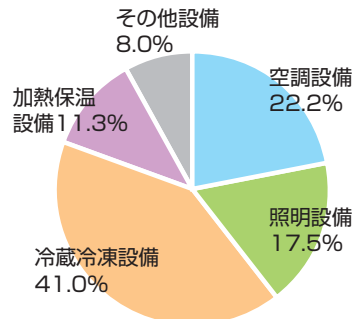
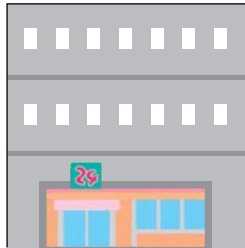
いずれの店舗においても、冷蔵冷凍設備のシェアが非常に大きいことがわかります。それ以外は、空調設備、照明設備、加熱保温設備のシェアが大きく、その他設備のシェアは低いようです。

また、フライヤーがある店については、フライヤーがない店よりかなり加熱保温設備のシェアが大きくなり、冷蔵冷凍設備を上回る場合もあるようです。

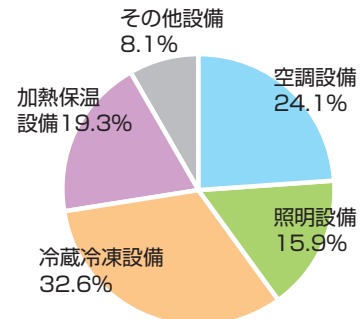
什器の台数等が店によって少し異なりますので、そのまま当てはまるわけではありませんが、これらを参考にし、皆さんの店舗の電気使用量の内訳を考えてみましょう。

<電気使用量(kWh/年)の設備別シェア(推定値)>

A店 ビルインタイプ

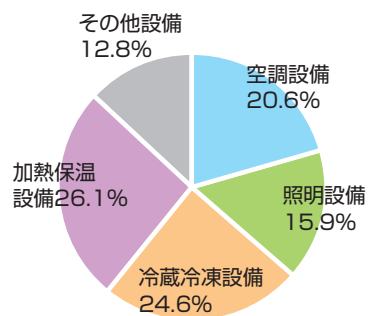


- ・3階建て1階部分使用:125m²
- ・フライヤーなし

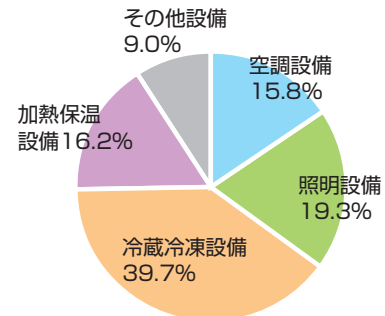


- ・3階建て1階部分使用:159m²
- ・フライヤーあり

B店 単独タイプ

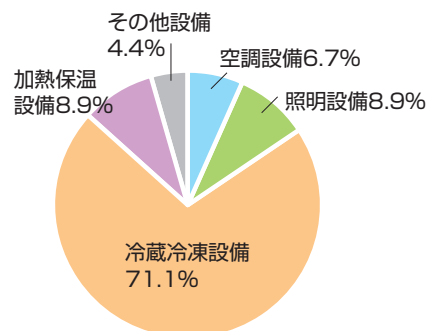
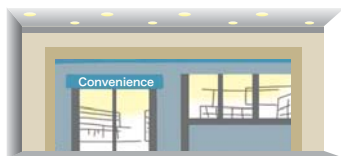


- ・1階建て単独使用:165m²
- ・フライヤーあり



- ・1階建て単独使用相当:103m²
- ・フライヤーあり(小型)

C店 夜間閉店タイプ



- ・高層ビル1階の一区画を使用:197m²
- ・フライヤーなし
- ・ビル1階フロア全体の空調を利用できるため、空調設備のシェアは小さい

■コンビニ設備の概観

前ページで確認した電気使用量のシェアを念頭において、店舗のコンビニ設備を概観してみましょう。

①冷蔵冷凍設備
節電対策はP15

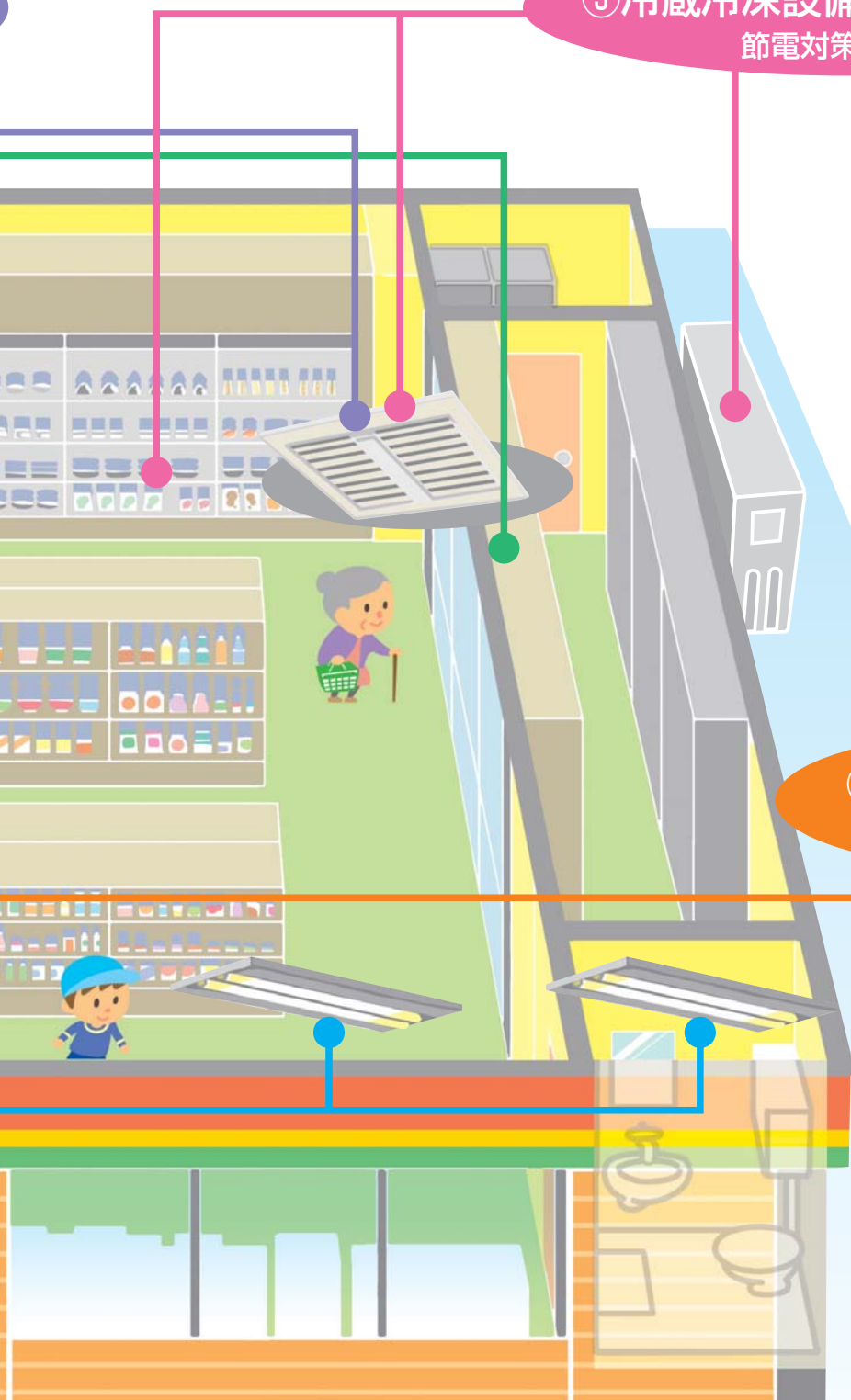
②空調設備
節電対策はP17

④照明設備
節電対策はP21



③冷蔵冷凍設備・空調設備共通 節電対策はP19

⑤加熱保温設備 節電対策はP23



Step.1で把握した前年の電気使用量・電気料金を基準に、今年の目標を、月ごとに決めましょう。

■目標の決定

各月の目標の電気使用量・電気料金を決める上で、まず参考となるのは、前年の同じ月の電気使用量・電気料金です。

原則として、前年の同じ月を下回る目標を定めましょう。

ただし、夏や冬の電気使用量は気温に大きく左右される(夏は、気温が高ければ高いほど、冬は、気温が低ければ低いほど、電気使用量が増える傾向があります)ことに注意が必要です。

例えば、前年の夏が冷夏だった場合には、夏の電気使用量を前年より大きく下げることが難しいという予測がでます。

なお、行政機関やフランチャイズ本部等から、お店に節電の要請がある場合は、要請に応えられる目標にしましょう。

■節電チェックシートへの記入

目標の電気使用量・電気料金を決めたら、「節電チェックシート」(裏表紙)の該当欄に書き込みます。(下図)
これでStep.2は完了です。

		Step.1 現状把握				Step.2 目標の設定			
月		前 年				目 標			
		電気使用量		電気料金		電気使用量		電気料金	
4	月	12,000	kWh	248,000	円	11,312	kWh	235,600	円
5	月	11,000	kWh	230,000	円	10,361	kWh	218,500	円

記入例

Step2で決めた数値目標が達成できるように、各月で重点的に取り組む節電対策の内容を決めて、それを実行しましょう。

■節電対策を着実に進めるためのヒント

具体的な節電対策の内容に入る前に、節電対策を着実に進めていくために基本となることをここで確認しましょう。



①チームワークで取り組むこと

省エネ・節電の基本は、全員で取り組むことです。

各スタッフミーティングで、節電対策を議題に挙げましょう。

最初は、店長自らが率先して取り組み、徐々にスタッフと連携して、全員参加型の体制を目指していきましょう。

また、積極的に取り組んでいるスタッフを評価したり、スタッフの中から“エコリーダー”を指名したりすることも有効です。

②エネルギーの無駄を見つける目を持つこと

必要なところへ、必要なときに、必要なだけのエネルギー（電気）を使っているかどうか、店長として、常日頃から意識することが大切です。これは、節電だけでなく、スタッフの作業を効率化することにも繋がります。

③フランチャイズ本部と協力すること（フランチャイズ加盟店の場合）

フランチャイズ本部が皆さんの店舗に対して示している、各種のマニュアルや基準は、商品の品質管理等、総合的にお店の運営を考えて、作られたものです。まずは、そのマニュアルや基準を守るように努めましょう。その上で、節電対策を進める方法やプランについて、本部と相談し、協力を得ながら取り組んでいきましょう。

<フランチャイズ本部等へ>

*本部等と各店舗との間で、定期的に節電に関してミーティングや意見交換をすることが重要です。

本部等は参考となる情報やデータを加盟店に提供するなどして、積極的に店舗の節電対策を支援して下さい。

*進んだ取り組みを行っている店舗については、その取り組みを評価するとともに、取り組み内容を他店舗にも紹介し、水平展開して下さい。

*節電対策等、環境対策に貢献したスタッフを表彰するなど、スタッフのモチベーションを上げる支援も重要です。

■取り組み内容の決定

ひとくちに節電対策といっても、様々なものがあります。

大きく2つに分けると、運用・設備保守対策(お金をあまりかけずに出来る対策)・設備導入対策(お金をかけて設備を更新、導入する対策)となります。

本ガイドでは、日々の店舗の取り組みとして、前者の運用・設備保守対策を中心にとりあげています。

右ページのリストは、運用・設備保守対策について、その効果とともに一覧にしたものです。

一覧の中から、その月に重点的に取り組む内容を選び、「節電チェックシート」(裏表紙)に書き込みましょう。

<対策を選ぶ際のポイント>

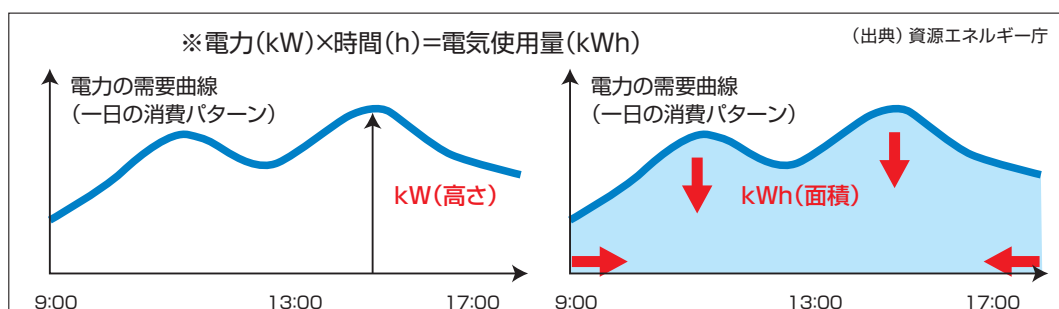
- ・最初は、取り組みやすそうなものから選ぶ
- ・削減見込量、削減見込額が大きい対策を選ぶ
- ・各季節により、対策の節電効果は異なるので、季節に適した対策を選ぶ
(効果が大きい順に、◎、○、△(×は効果なし))
- ・ここでは重点的に取り組む内容を選ぶので、既に習慣づいている取り組みは選ばない。

なお、各対策の詳細は、P.13～19で確認できますので、参考にして下さい。

		Step.1 現状把握		Step.2 目標の設定		Step.3 節電対策の実施	
月		前 年		目 標		節電対策	
		電気使用量	電気料金	電気使用量	電気料金	(特に力を入れて取り組むもの)	
4	月	12,000 kWh	248,000 円	11,312 kWh	235,600 円	・窓際照明の昼間の消灯 ・暖房の20℃設定の徹底	
5	月	11,000 kWh	230,000 円	10,361 kWh	218,500 円	・窓際照明の昼間の消灯 ・エアコンの完全停止 ・週1回のフィルター清掃	

記入例

<ヒント>



高圧電力の場合は、「高さ=kW」の過去1年間(当月含む)の最大値が「契約電力」となり、その月の基本料金を決定します。
低圧電力の場合は、設備容量または実負荷を考慮した開閉器容量により、「契約電力」が決まり、基本料金を決定します。
「面積=kWh」が「電気使用量」であり、1kWh当たりの単価を乗じたものが、その月の従量料金となります。(高圧、低圧共通)

上図のとおり、電気使用量とは、電力と時間のかけ算で決まります。

したがって、節電には、

- ・電力を下げる(例:冷房の温度を27℃から28℃に上げる)
- ・電力を使う時間を短くする(例:エアコンをつけている時間を短くする)

という2つの方法があります。

この観点を踏まえて、節電対策を考えると、より深く理解することができます。

節電対策リスト								
対象設備	節電対策	電気使用量 年間削減見込量 (月間削減見込量)		電気料金 年間削減見込額 (月間削減見込額)		見込める節電効果		
						中間期 (春・秋)	夏	冬
① 冷蔵冷凍設備	A 冷蔵庫ドアの開放時間を減らす	1,041 (87)	kWh	18,738 (1,562)	円	○	◎	△
	B ショーケースの吸排気口をふさがない	639 (53)	kWh	11,502 (959)	円	○	◎	△
	C ロードラインを確保する	639 (53)	kWh	11,502 (959)	円	○	◎	△
	D ナイトカバーを使用する	1,064 (89)	kWh	19,152 (1,596)	円	○	◎	△
② 空調設備	A 売り場・バックヤードのエアコン設定温度基準を守る	1,905 (159)	kWh	34,290 (2,858)	円	△	◎	◎
	B バックヤードのエアコンを不要なときに停止する	140 (12)	kWh	2,520 (210)	円	△	○	○
	C 中間期・夏の夜間・冬の昼間に、売り場・バックヤードのエアコンを可能な限り停止する	6,264 (522)	kWh	112,752 (9,396)	円	◎	◎	◎
	D エアコン使用時に店舗入口を開放しない	1,905 (159)	kWh	34,290 (2,858)	円	△	◎	◎
③ 冷蔵冷凍設備 & 空調設備 (共通)	A 毎週1回全てのフィルターを清掃する	1,277 (106)	kWh	22,986 (1,916)	円	○	◎	○
	B 室外機に日よけを設置する	2,453 (204)	kWh	44,154 (3,680)	円	△	◎	×
	C 室外機の風通しを良くする	4,967 (414)	kWh	89,406 (7,451)	円	○	◎	◎
④ 照明設備	A バックヤードの不使用部分の照明を消灯する	460 (38)	kWh	8,280 (690)	円	○	○	○
	B バックヤードや売り場の照度を見直す	8,432 (703)	kWh	151,776 (12,648)	円	◎	◎	◎
	C 日中は窓際等の売り場の不要照明を消灯する	3,373 (281)	kWh	60,714 (5,060)	円	◎	◎	◎
	D 屋外照明の点灯時間を短縮する	1,288 (107)	kWh	23,184 (1,932)	円	○	○	○
	E トイレ照明の消し忘れを防ぐ	92 (8)	kWh	1,656 (138)	円	△	△	△
⑤ 加熱保温設備	A おでん加熱時のふた閉めを徹底する	706 (59)	kWh	12,708 (1,059)	円	○	△	◎
	B フライヤーのセーブモードを活用する	1,135 (95)	kWh	20,430 (1,703)	円	○	○	○
	C ホットドリンクは必ず常温から温める	289 (24)	kWh	5,202 (434)	円	△	△	○
	D 給湯ポットの台数を利用者数に応じて変更する	515 (43)	kWh	9,270 (773)	円	○	○	○

① 冷蔵冷凍設備の節電対策

A 冷蔵庫ドアの開放時間を減らす

<内容>

冷蔵庫の中で作業するときは、必ず扉を閉めて作業する。
また、冷蔵庫のドアの開閉は最小限にする。

<ヒント>

- ・扉が開いたままで作業すると、暖かい空気が冷蔵庫内に流入してしまいます。すると、冷蔵庫が設定温度に冷やそうと稼動するため、無駄な電力を消費してしまいます。
- ・ドアを開閉する際にも、暖かい空気が冷蔵庫の中に流入します。ドアの開閉を最小限にするため、冷蔵庫に入れる商品をドアの近くに事前に準備するなど、効率のよい作業を心がけましょう。冷蔵庫内の「整理整頓」をすると良いでしょう。
- ・ドアのパッキンに痛みがあると、ドアが閉まっても、冷気が庫外に流出してしまいます。ドアのパッキンに痛みがないか確認し、痛みがある場合は、交換しましょう。
- ・冷蔵庫内のドア付近にビニールカーテンを設置すると開閉時の負荷を緩和することができます。

年間削減見込：1,041kWh 18,738円

試算条件	設備の大きさ	11kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	0.9
	平均負荷率(対 定格)	0.6
	年間電気使用量	52,034kWh/年
	従量料金単価	18円
	省エネ率	2%



B ショーケースの吸排気口をふさがない

<内容>

搬入時などに、アイスクース等の吸排気口の前に商品を置かないようにする。

<ヒント>

- ・アイスクース等のショーケースには、外気の吸気口と排気口があります。
- 商品の搬入時に、ショーケースの目の前に商品を置いてしまうと、吸気口や排気口がふさがれて、ショーケースが無駄な電力を消費してしまいます。
- ・吸気口と排気口をふさがずに商品を置ける場所を決めて、そこに置くことをルール化すると良いでしょう。

年間削減見込：639kWh 11,502円

試算条件	設備の大きさ	13.5kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	0.9
	平均負荷率(対 定格)	0.6
	年間電気使用量	63,860kWh/年
	従量料金単価	18円
	省エネ率	1%



C ロードラインを確保する

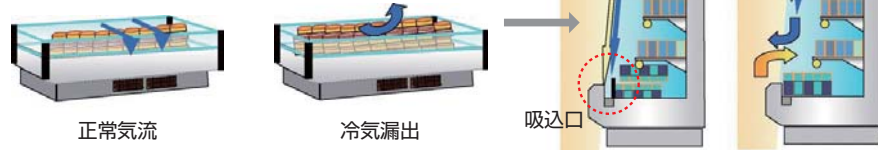
年間削減見込：639kWh 11,502円

<内容>

各ショーケースのエアカーテンを商品やPOPで妨害しないように徹底する。

<ヒント>

- ・商品やPOPがエアカーテンの軌道(ロードライン)を邪魔している
と、エアカーテンの気流が乱れて、ショーケース内に外気が流れ込んでしまいます。すると、ショーケース内の温度が上昇し、ショーケースは再度、設定温度まで冷却しようとするため、電力を消費してしまいます。
- ・お昼時などの忙しい時間帯では、商品を積み上げがちで整理する時間も不足します。エアカーテンの気流が流れるように、商品を置く位置を工夫しましょう。また、お客様が少なくなった頃を見計らって、整理を行ってください。
- ・エアカーテンの噴出口・吸込み口(ロードライン)がどこか、スタッフ全員で確認しましょう。
- ・POPや商品は、エアカーテンを妨げない位置・方向に置いて、こまめに整理しましょう。
- ・エアコンの風がエアカーテンを乱している場合もあります。風向きをチェックしましょう。



試算条件	設備の大きさ	13.5kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	0.9
	平均負荷率(対 定格)	0.6
	年間電気使用量	63,860kWh/年
	従量料金単価	18円
	省エネ率	1%

D ナイトカバーを使用する ※夜間閉店タイプの店舗向け

年間削減見込：1,064kWh 19,152円

<内容>

閉店時は、扉のないショーケースに、ナイトカバーを使用する。

<ヒント>

- ・閉店の間、ナイトカバーでショーケースを覆うことにより、ショーケースの冷気が店内に漏れ出すのを防ぎ、節電になります。
- ・ナイトカバーの設置は、防塵のメリットもあります。



試算条件	設備の大きさ	13.5kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	0.3
	平均負荷率(対 定格)	0.6
	年間電気使用量	21,287kWh/年
	従量料金単価	18円
	省エネ率	5%

<フランチャイズ本部等へ>

※近年、技術革新が進み、冷蔵設備・冷凍設備のエネルギー消費効率(COP/APF)が改善されてきています。高効率型の設備への更新をご検討下さい。

※ホットドリンクのショーケースと冷蔵・冷凍のショーケースが隣接していると、互いに負荷がかかり、非効率になります。什器の配置を工夫することは節電の意味でも重要です。

②空調設備の節電対策

A 売り場・バックヤードのエアコン設定温度基準を守る

年間削減見込: 1,905kWh 34,290円

<内容>

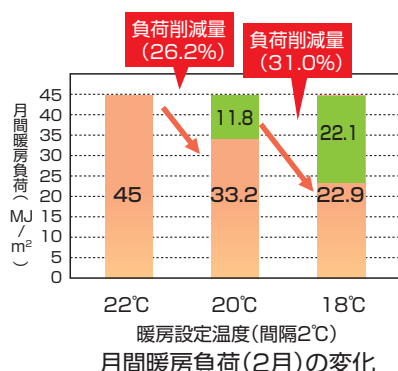
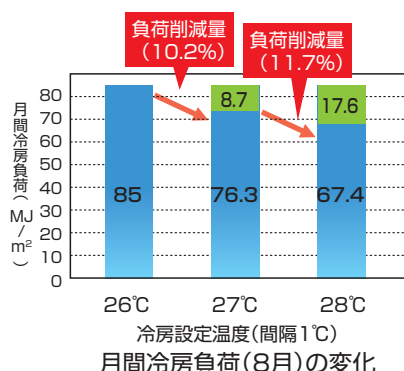
売り場でのエアコン使用時に、フランチャイズ本部等が推奨するエアコンの設定温度基準を守る。

また、バックヤード用のエアコン使用時は、東京都推奨温度の「夏28℃、冬20℃」で室温管理を行う。

※売り場のエアコンの設定温度基準が無い場合は、バックヤードと同様に東京都推奨温度「夏28℃、冬20℃」で室温管理する。

<ヒント>

- ・エアコンの設定温度を1℃緩和すると、空調の消費電力を10%以上節電できると試算されています。
- ・ユニフォームの下には、夏場は冷感素材のもの、冬場は厚手の靴下や保温素材のものなどを着用し、エアコンに頼らなくても快適に過ごせるように工夫しましょう。



出典: (財)省エネルギーセンター「2012ビル省エネ手帳」



B バックヤードのエアコンを不要なときは停止する

年間削減見込: 140kWh 2,520円

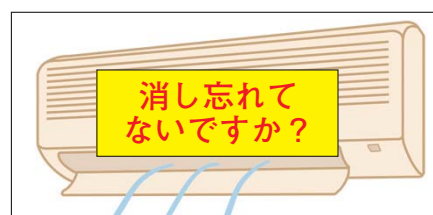
<内容>

バックヤードに人がいないとき等、不要なときは、エアコンを停止する。

<ヒント>

- ・長時間無人、不要となるときは、エアコンを停止した方が節電になります。(機種、条件にもよりますが、30分以上が一つの目安)
- ・切り忘れを防ぐため、出入口等に貼り紙をすると効果的です。

試算条件	設備の大きさ	0.4kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	1.0
	平均負荷率(対 定格)	0.4
	年間電気使用量	1402kWh/年
	従量料金単価	18円
	省エネ率	10%



貼り紙の例

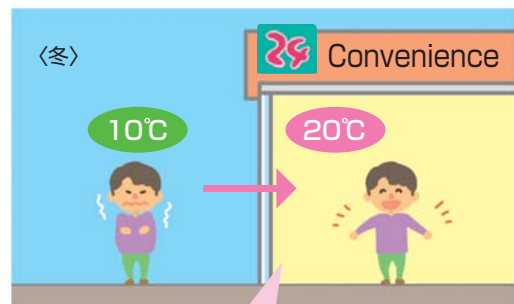
C 中間期・夏の夜間・冬の昼間に、売り場・バックヤードのエアコンを可能な限り停止する

<内容>

中間期(春・秋)、夏の夜間、冬の日中など、過ごしやすい気候で、商品の品質管理上問題ないときは、エアコンを停止する。

<ヒント>

- ・店外・売り場内・レジカウンター・バックヤードのそれぞれに温度計を設置し、実際の気温・室温をみてエアコンを操作すると有効です。
- ・レジカウンター周辺の温度は、加熱保温設備が集中するため、売り場の平均的な室温よりも通常高くなっています。
- ・お客様は、外から入ってきますので、外気温度よりも売り場温度が少しでも低ければ涼しく、少しでも高ければ暖かく感じます。店内で長時間過ごしているスタッフとは、体感温度が異なることが重要なポイントです。



外から来るお客様にとっては、20℃でも充分暖かい

年間削減見込: 6,264kWh 112,752円

試算条件	設備の大きさ	14.5kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	1.0
	平均負荷率(対 定格)	0.3
	年間電気使用量	38,106kWh/年
	従量料金単価	18円
	停止日数割合	60日/365日

D エアコン使用時に店舗入口を開放しない

<内容>

エアコン使用時は、店舗の入口を開けっ放しにしないように徹底する。

<ヒント>

- ・エアコンを使用しているときに、外の空気が入ると、店内温度が影響を受け、電力を無駄に消費してしまいます。
- ・手動ドアの場合は、お客様が入退店時に開けっ放しにしてしまうケースもままあります。ドアに張り紙をするとともに、スタッフが気を配って、開けっ放しを防ぎましょう。



年間削減見込: 1,905kWh 34,290円

試算条件	設備の大きさ	14.5kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	1.0
	平均負荷率(対 定格)	0.3
	年間電気使用量	38,106kWh/年
	従量料金単価	18円
	省エネ率	5%

<フランチャイズ本部等へ>

- *近年、空調設備のエネルギー消費効率(COP/APF)が大幅に改善されてきています。高効率型の設備への更新をご検討下さい。
- *全熱交換機の導入も節電に有効な手段の一つです。
- *建物の省エネルギー化も空調設備の節電には非常に有効です。
 - ・屋根、外壁、窓の断熱・遮熱対策(遮熱用ガラス(フィルム)、ブラインド等)をご検討下さい。
- *温度計による実測は、室温管理に非常に有効ですので、温度計利用の推奨をお願いします。

③ 冷蔵冷凍設備と空調設備共通の節電対策

A 毎週1回フィルターを清掃する

年間削減見込：1,277kWh 22,986円

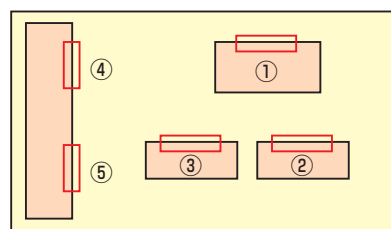
<内容>

ショーケースとエアコンの室内機フィルターを毎週1回、定期的に清掃する。

<ヒント>

- ・フィルターが汚れていると、ショーケースやエアコンの給排気に支障が出て、電力を無駄に消費してしまいます。
- ・店内のどこにフィルターがあるか調べて「フィルターマップ」を作成しましょう。
- ・いつ、誰が清掃するかルールをつくりましょう。
例：店長が週1回（木曜日）
- ・清掃を実施した日を記録しましょう。
- ・エアカーテンの噴出口と吸込口にあるフィルター（ハニカム）も忘れずに清掃しましょう。

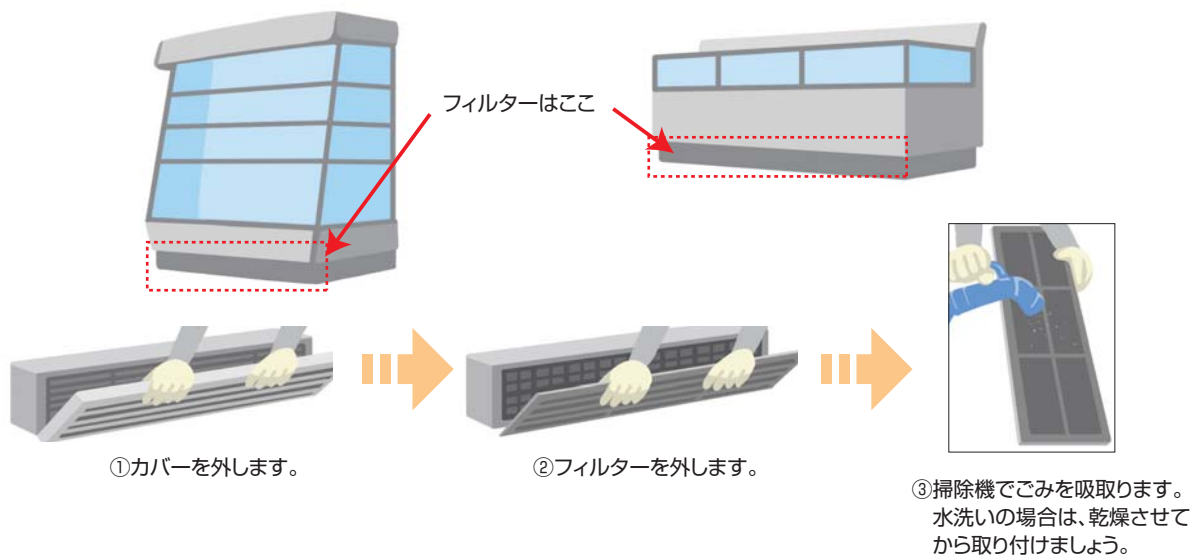
試算条件	設備の大きさ	13.5kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	0.9
	平均負荷率(対 定格)	0.6
	年間電気使用量	63,860kWh/年
	従量料金単価	18円
	省エネ率	2%



①エアコン ③アイス ⑤冷凍食品
②ドリンク ④冷蔵食品

フィルターマップの例

<ショーケースのフィルター清掃>



<エアコン室内機のフィルター清掃>



B 室外機に日よけを設置する

<内容>

夏場に室外機に直射日光が当たらないよう、「日よけ」を設置する。
(冬は不要です。)

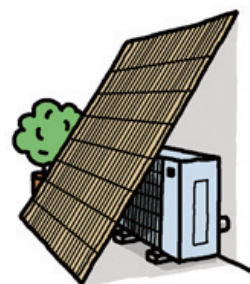
<ヒント>

- ・夏場に室外機に日光があたり、機器の温度が上がると、冷蔵冷凍設備・空調設備の効率が悪くなり、消費電力が上がってしまいます。
- ・よしず等を利用して、日光を遮蔽しましょう。
- ・風通しが悪くならないように、「日よけ」の素材や設置の仕方には注意しましょう。

日よけを、風を通さない素材からメッシュ素材に変えたことにより、大きく節電となった事例もあります。

年間削減見込: 2,453kWh 44,154円

試算条件	設備の大きさ	14.5+13.5=28kW
	使用時間	2920h/年
	実稼動時間(稼働率)	1.0
	平均負荷率(対 定格)	0.3
	年間電気使用量	24,528kWh/年
	従量料金単価	18円
	省エネ率	10%



C 室外機の風通しを良くする

<内容>

室外機の周辺を整理して、風通しを良くする。

<ヒント>

- ・室外機に機材などがたてかけてある等、遮蔽物があると、室外機の廃熱を妨げて、冷蔵冷凍設備・空調設備の効率が悪くなり、消費電力が上がってしまいます。
- ・屋上の室外機等で、防音等の対策を行うときは、通気性を考慮しましょう。
- ・店の外壁付近に設置された室外機の付近は、店舗の備品などの物置になりがちですので特に注意が必要です。

年間削減見込: 4,967kWh 89,406円

試算条件	設備の大きさ	14.5+13.5=28kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	0.9
	平均負荷率(対 定格)	$(0.3+0.6)/2=0.45$
	年間電気使用量	99,338kWh/年
	従量料金単価	18円
	省エネ率	5%



近くにモノは置かない!

<フランチャイズ本部等へ>

*室外機の設置場所は、電気使用量に大きく影響します。

・風通しの良い場所、直射日光の当たらない場所への移設をご検討下さい。

*従来は、冷蔵設備・冷凍設備・空調設備は、それぞれ別の熱源機で運転していましたが、近年では、全ての熱源を一体型とした機器があります。

暖房時に、冷蔵・冷凍庫の廃熱を熱回収して空調用に活用するなど、高効率運転が行えるため、メーカーの試算では、従来型よりも年間20%~50%の節電効果が見込めます。

設備更新時の選択肢の一つとして、ご検討下さい。

④ 照明設備の節電対策

A バックヤードの不使用部分の照明を消灯する

<内容>

人がいない箇所等、バックヤードの不使用部分の照明を必ず消灯する。

<ヒント>

- ・照明の消し忘れがないように、出入口に張り紙をしましょう。

年間削減見込：460kWh 8,280円

試算条件	設備の大きさ(32W5本)*	0.175kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	1.0
	平均負荷率(対 定格)	1.0
	年間電気使用量	1,533kWh/年
	従量料金単価	18円
	省エネ率	30%

※安定器等を含めると1台35W

B バックヤードや売り場の照度を見直す

<内容>

適切な明るさとなるように調整する。

(照明ランプの間引き(取り外し)、消灯を行う。調光システムがある場合は、照度調整を行う)

<ヒント>

- ・原則として、間引きは、LED照明等の高効率照明に対してではなく、従来型の蛍光灯ランプに対して実施します。(古いタイプの蛍光灯ランプの間引きは、特に大きな節電効果が見込めます。)
- ・明るすぎる照明は、お客様にとっても好ましいものではありません。売り場の照度を適切な明るさに下げることによって、節電するとともに、売り場の魅力向上につなげましょう。
- ・商品の陳列部が周囲よりも明るければ、商品は目立ちます。売り場全体の照度を下げて、商品の照らし方を工夫してみましょう。
- ・照明ランプの取り外しは、スイッチで消灯してから行いましょう。
- ・2灯以上のランプを使用する照明器具からの間引きの場合は、2本セットで取り外してください。
- ・JIS基準では、店内全般の照度は、日用品店で300ルクス(店頭は500ルクス)、スーパーマーケットでは500ルクス(店頭は750ルクス)が適切となっています。適切な照度になっているか、見直してみましょう。(照度計は安いものなら数千円程度で購入可能です。また、東京都地球温暖化防止活動推進センターの「省エネ診断」でも照度測定を行っています(無料、最終ページ参照)。)
- ・バックヤードでは、電気スタンド等の手元照明を活用しましょう。
- ・照明ランプや反射板は清掃して、きれいに保ちましょう。汚れると本来の照度よりも暗くなります。

年間削減見込：8,432kWh 151,776円

試算条件	設備の大きさ	3.85kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	1.0
	平均負荷率(対 定格)	1.0
	年間電気使用量	33,726kWh/年
	従量料金単価	18円
	省エネ率	25%

C 日中は窓際等の売り場の不要照明を消灯する

<内容>

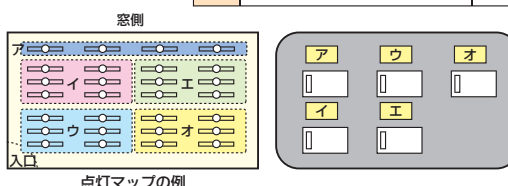
昼間、日光により照明が不要な箇所をスイッチで消灯する。

<ヒント>

- ・窓際は、日光により十分に照度が確保できるため、昼間は照明が不要となっている場合があります。日中はその部分の照明を消しましょう。
- ・点灯マップを作成し、照明スイッチに点灯範囲を掲示すると便利です。(右図)

年間削減見込：3,373kWh 60,714円

試算条件	設備の大きさ	3.85kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	1.0
	平均負荷率(対 定格)	1.0
	年間電気使用量	33,726kWh/年
	従量料金単価	18円
	省エネ率	10%



D 屋外照明の点灯時間を短縮する

年間削減見込: 1,288kWh 23,184円

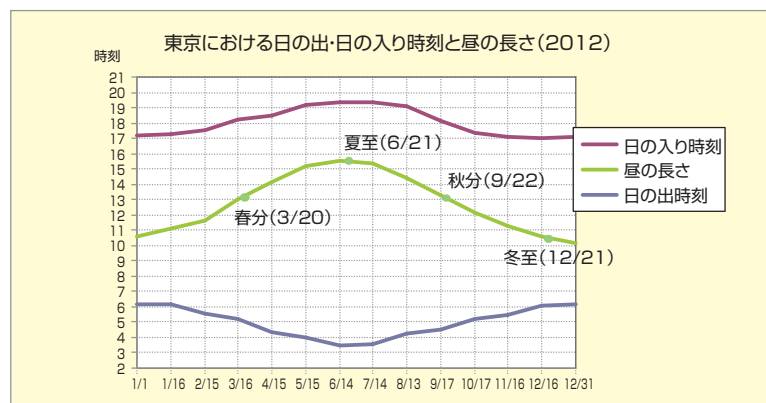
<内容>

外が明るい時間帯では、屋外照明を消す。

<ヒント>

- ・日出時間、日没時間は日々少しずつ変わります。
- ・外の明るさをチェックしながら点灯時間を管理しましょう。

試算条件	設備の大きさ	0.98kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	0.5
	平均負荷率(対 定格)	1.0
	年間電気使用量	4,292kWh/年
	従量料金単価	18円
	省エネ率	30%



E トイレ照明の消し忘れを防ぐ

年間削減見込: 92kWh 1,656円

<内容>

不使用時はトイレ照明を必ず消灯する。

<ヒント>

- ・トイレ照明のつけっ放しは、お客様によるものも多いです。
- ・お客様に気付いていただくように、出入口の扉に張り紙で大きく掲示しましょう。
- ・トイレ照明がちゃんと消灯しているか、定期的にチェックするとともに、消灯状況を記録してみましょう。

試算条件	設備の大きさ	0.042kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	0.5
	平均負荷率(対 定格)	1.0
	年間電気使用量	184kWh/年
	従量料金単価	18円
	省エネ率	50%

<フランチャイズ本部等へ>

*屋内照明・屋外照明ともに、Hf 型照明、LED 照明等の高効率型の照明への更新をご検討下さい。なお、更新をされる際は、同時に店舗の照度を見直す機会としていただき、更新後の店舗が適切な照度となるようにご留意下さい。(Hf 型照明からLED 照明への更新の場合等は、店内照度を更新前と同じ水準にしまうと、場合によっては節電の効果が得られないこともあります。御注意下さい。)

*調光制御装置の導入をご検討下さい。

*照明回路を細分化して照度制御することをご検討下さい。

*利用者の多い店舗では、トイレ照明への人感センサーの設置をご検討下さい。

*床や壁の材質を光を反射する性質のものに変更すると、消費電力を上げずに照度を上げることができます。

*照度計による実測は、店舗の照度管理において非常に有効です。

⑤ 加熱保温設備の節電対策

A おでん加熱時のふた閉めを徹底する

<内容>

おでんを加熱する時は、必ずふたを閉める。

<ヒント>

- ・ふたをすると、おでんウォーマーの熱が逃げるのを防ぎ、加熱時間を短縮することができるとともに、節電になります。
- ・保温状態のときも、同様にふたを閉めていれば節電になります。
- ・ふたを閉めることによって、だしの蒸発を防ぐ効果もあります。

年間削減見込：706kWh 12,708円

試算条件	ふたナシ時の放熱の大きさ	0.105kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	0.96
	電気使用量換算放熱損失	883kWh
	従量料金単価	18円
	ふた閉めによる放熱防止割合	0.8

B フライヤーのセーブモードを活用する

<内容>

フライヤーの不使用时は、必ずセーブモードにする。

<ヒント>

- ・セーブモードにすることにより、フライヤー不使用时の加熱を抑えることができ、節電になります。
- ・一度にまとめて調理することにより、フライヤーの使用時間を短くし、セーブモードの活用時間を長くすると効果的です。
- ・フライヤーを定期的に清掃しましょう。フライヤーの加熱ヒーターが汚れると、熱の伝わりが悪くなり、余計な電力を消費します。

年間削減見込：1,135kWh 20,430円

試算条件	設備の大きさ	2.7kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	0.96
	平均負荷率(対 定格)	0.5
	年間電気使用量	11,353kWh/年
	従量料金単価	18円
	省エネ率	10%

C ホットドリンクは必ず常温から温める

<内容>

ホットドリンクは、必ず常温のものをホットドリンクのショーケースに入れる。

<ヒント>

- ・冷蔵設備で冷えた状態から加熱すると、余計に電力を消費してしまいます。
- ・ホットドリンクは商品搬入後に冷蔵庫に入れずに常温で保管しましょう。
- ・缶コーヒーなど、ホットとコールドの両方対応している商品は、コールドドリンクのケースから直接ホットドリンクのケースに直接移動することがないように注意しましょう。

年間削減見込：289kWh 5,202円

試算条件	設備の大きさ	0.66kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	1.0
	平均負荷率(対 定格)	0.5
	年間電気使用量	2,891kWh/年
	従量料金単価	18円
	省エネ率	10%

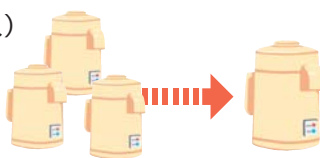
D 給湯ポットの台数を利用者数に応じて変更する

<内容>

利用者の少ない時間帯や夏場は、給湯ポットの台数を減らす。
(使用しない分のコンセントを抜く)

<ヒント>

- ・ポットの利用者の多い時間帯と少ない時間帯を把握しましょう。



(例) ・利用者が多い時間帯(朝・昼・夕の食事どき)3台⇒閑散時間帯は2台減らして1台に

年間削減見込：515kWh 9,270円

試算条件	設備の大きさ	1.96kW
	使用時間	8760h/年
	実稼動時間(稼働率)	1.0
	平均負荷率(対 定格)	0.1
	年間電気使用量	1,717kWh/年
	従量料金単価	18円
	省エネ率	30%

それぞれの月で電気使用量・電気料金の実績を、節電チェックシートに入力し、取り組み状況を振り返って、次月以降の取り組みに活かしていきましょう。

Step.4 結果の振り返り

今年		「前年ー今年」(削減量と削減額)		目標の達成 (○、△、×)	振り返りメモ
電気使用量	電気料金	電気使用量	電気料金		
11,200 kWh	233,800 円	800 kWh	14,200 円	○	寒い日が続いたが、暖房20℃を徹底することができた。

記入例

各月の実際の電気料金が出たら、節電チェックシート(裏表紙)に今年の電気使用量・電気料金を記入しましょう。
次に、Step1で記入した前年の電気使用量・電気料金と、今年の電気使用量・電気料金を引き算して、「前年ー今年」の欄に記入します。

■取り組み状況を振り返って、今後の取り組みに活かしましょう。

今年の電気使用量・電気料金と、Step2で記入した目標の電気使用量・電気料金を比較してみてください。目標は達成できましたか？

「目標の達成」欄に、達成できていれば「○」、達成まであとわずかであれば「△」、全く達成出来なかった場合は、「×」を記入しましょう。

最も重要なことは、結果を踏まえて、取り組み状況を振り返り、今後の取り組みに活かすことです。

「○」の場合も、「×」の場合も、スタッフを交えて振り返りを行い、節電チェックシートの「振り返りメモ」欄に記入を行ってください。

<振り返りの例>

【「目標の達成」○のケース】

振り返り：「冷蔵庫の扉の開けっ放しの防止を徹底したことが有効だったのではないかな」

→今後に向けて：「冷蔵庫の扉開閉時にブザーがなるようにして、さらに徹底をはかる」

【「目標の達成」×のケース】

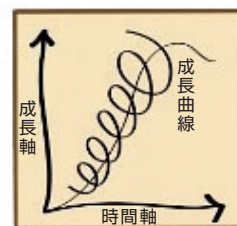
振り返り：「暑くてエアコンの温度設定を下げたが多かった」

→今後の方針：「なるべく薄着にして、エアコン設定温度を上げる(クールビズ)」

■Step.1～4に繰り返し取り組みましょう

以上のStep.1～4のプロセスを毎月ごとに行うことによって、皆さんの店舗の省エネ・節電が段々進んでいきます。
このようなプロセスは、一般的にPDCA サイクルと言われるものです。

- ・PLAN=計画 [Step.1、2 現状を把握して目標を立てる]
 - ・DO=実行 [Step.3 目標を目指して実行する]
 - ・CHECK=振り返る [Step.4 結果を振り返る]
 - ・ACTION=次の計画に活かす [次のStep1～ 結果を次月のStep1以降に活かす。]
- PDCA サイクルを継続して、試行錯誤を重ねながら、対策をレベルアップしていきましょう。



レベルアップのイメージ

★節電をより一層進めるために ～“見える化”のすすめ～★

節電をより一層進めるためには、

- ・ スタッフの節電意識をより高めること
- ・ 節電の進捗状況をより明確に把握すること

が重要です。そこで、“見える化”を行いましょ。

■節電チェックシートの“見える化”

Step.1～4で使用する節電チェックシートを、スタッフの目に触れる場所に掲示しましょ。

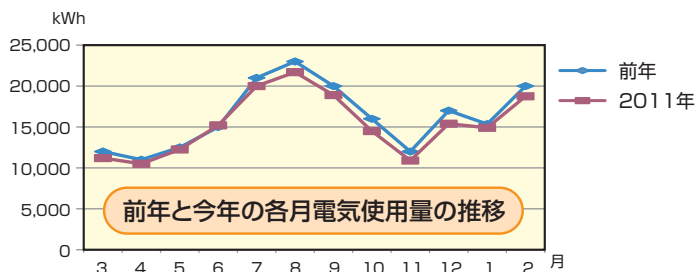
これにより、目標とその達成状況をスタッフ全員が共有することができ、スタッフの節電意識を高めることにつながります。

また、節電チェックシートの作成・記入の過程も“見える化”しましょ。具体的には、Step2の目標やStep3の節電対策内容を、店長の皆さんだけの意見ではなく、ミーティング等を通じて、スタッフの意見を取り入れて作成しましょ。また、Step4 の振り返りもスタッフと一緒にしましょ。スタッフが当事者意識を持つことで、節電意識を高めることにつながります。

■各月の電気使用量の推移の“見える化”

皆さんの店舗の電気使用量の年間の推移を“見える化”しましょ。具体的には、節電チェックシートで記入した前年・今年の各月の電気使用量をグラフ化します。

年間の推移をグラフで見ることで、節電の進捗状況をより明確に把握することができます。



このグラフは、節電チェックシートの記入を電子ファイル版で行うと、自動的に作成することができます。電子ファイル版は、インターネットから簡単にダウンロードできます(無料)。

(⇒<http://www.tokyo-co2down.jp/seminar/type/text/>)

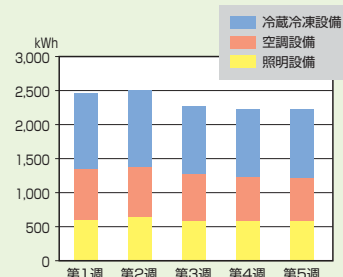
このグラフを節電チェックシートとともに、スタッフの目に触れる場所に掲示しましょ。

<フランチャイズ本部等へ>

* 近年、設備ごとの電気使用量のデータを収集するものから、パソコン上でリアルタイムでデマンド値を確認できるものまで、使用状況を詳細に把握できる設備の開発が進んでいます。導入をご検討下さい。

* 以下のURLから無料でダウンロードできる「エネルギー管理ツール」に、「地球温暖化対策報告書」の提出データを取り込むと、簡単に全事業所(店舗)のCO₂排出量等を整理することが出来ます。ご活用下さい。

<http://www8.kankyo.metro.tokyo.jp/ondanka/report/format/index.html>



【中小規模事業所向け】

東京都環境局受託事業

平成23年4月版

東京都の**無料!!**

省エネルギー診断のススメ

省エネ＝経費削減＝CO₂削減



財団法人 東京都環境整備公社
東京都地球温暖化防止活動推進センター

クール・ネット東京

東京都地球温暖化防止活動推進センター(愛称:クール・ネット東京)の活動

1. 無料の省エネルギー診断: 省エネ診断のプロである技術専門員が事業所にお伺いして省エネに関する提案や技術的な助言を行います。
→お問合せ、お申込みは、03-5388-3439 へ
2. 省エネ技術研修会等の開催: 区市町村や業界団体と連携して、省エネ対策のポイントや進め方についての研修会やイベントでの個別相談を実施します。
3. 地球温暖化対策ビジネス事業者の登録・紹介: 温暖化対策の取り組みに積極的に協力する事業者の登録と紹介をしています。
4. その他: 地球温暖化対策報告書の受付、家庭の省エネ診断員制度の運営、住宅用創エネルギー利用機器導入促進事業などを実施しています。

発行 ● 東京都 環境局 都市地球環境部 計画調整課 平成25年3月

住 所 〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1 東京都庁第二本庁舎 8階

電 話 03(5388)3443

F A X 03(5388)1380

ホームページ <http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/>

編集 ● 財団法人東京都環境整備公社

東京都地球温暖化防止活動推進センター(愛称:クール・ネット東京)

住 所 〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1 東京都庁第二本庁舎 16階中央

電 話 03(5388)3439

F A X 03(5388)1384

ホームページ <http://www.tokyo-co2down.jp/>

協力 ● (社)日本フランチャイズチェーン協会

登録番号 (24) 95

節電子エックシート

結果の振り返り

月	前年		目標		節電対策 (特に力を入れて取り組むもの)	今年		「前年－今年」 (削減量と削減額)		目標の達成 ○、△、×	今後に向けて (振り返りメモ)
	電気使用量	電気料金	電気使用量	電気料金		電気使用量	電気料金				
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月	円	kWh	円		kWh	円	kWh	円		
	月										

★PCの場合 → <http://www.tokyo-co2down.jp/seminar/type/text/> よりダウンロードしてお使い下さい★